

第5次
富士宮市地球温暖化対策実行計画
(事務事業編)

令和2年度結果報告書

令和4年2月

富士宮市 環境企画課 環境エネルギー室

1 計画の概要

(1) 計画期間

実行計画の期間：2020（令和2）年度～2030（令和12）年度

本計画の期間は、2020（令和2）年度から2030（令和12）年度までの11年間としています。本計画の策定に当たっては、基準年度を2013（平成25）年度として削減目標等を定めます。

なお、社会情勢の変化、法改正等により、必要に応じ見直しを行います。

(2) 温室効果ガス排出削減目標

削減目標：2030（令和12）年度までに2013（平成25）年度比で41.7%削減する

分野別排出量の削減目標を、次のとおり設定します。

（単位：t-CO₂）

排出起源		基準年度実績 2013(平成25)年度	2030(令和12)年度目標	
電気の使用		16,445	電力使用量の削減及び新エネルギー等の導入により、温室効果ガス排出量を基準年度比で約16%削減します。	13,900
燃料の使用	都市ガス	3,248	燃料使用量の削減及び新エネルギー等の導入により、温室効果ガス排出量を基準年度比で約3%削減します。	3,150
	LPガス			
	A重油			
	灯油			
	ガソリン・軽油 (公用車燃料除く)			
公用車燃料		426	公用車使用による燃料(ガソリン及び軽油)使用量の削減により、二酸化炭素排出量を基準年度比で約16%削減します。	360
プラスチックごみの燃焼		24,534	プラスチックごみの焼却量の削減により、二酸化炭素排出量を基準年度比で約70%削減します。	7,800
その他 ・自動車(エアコン、走行) ・下水、し尿の処理		1,973 (平成25年度値が不明のため、平成26年度実績値を使用)	可能な限り削減に努めますが、数値目標は定めません。	1,973

(3) 計画の対象物質

本計画では、温対法第2条第3項が対象としている下記の7種類の温室効果ガスを対象とします。

名称	概要	地球温暖化係数 (温室効果)
二酸化炭素 (CO ₂)	主に石油や石炭などの化石燃料の燃焼により排出されます。エネルギー消費を伴う日々の生活と密接に関係しています。	1
メタン(CH ₄)	水田や家畜の腸内、廃棄物最終処分場における有機物の嫌気性発酵等において発生します。	25
一酸化二窒素 (N ₂ O)	化石燃料や一般廃棄物の燃焼、農用地の土壌や家畜排泄物等から発生します。	298
ハイドロフルオロ カーボン類(HFCs)	冷凍機器、空調機器の冷媒や断熱材等の発泡剤等に使用します。オゾン層を破壊しませんが、強い温室効果があります。	12~14, 800 【1,430(HFC-134a)】
パーフルオロ カーボン(PFCs)	主に半導体の製造工程等において使用されます。強い温室効果があります。	—
六ふっ化硫黄 (SF ₆)	主に電気絶縁ガスや半導体製造工程等において使用されます。強い温室効果があります。	—
三ふっ化窒素 (NF ₃)	半導体製造でのドライエッチングやこれらの製造装置のクリーニングに使用。	—

2 温室効果ガス排出状況

(1) 種類別の温室効果ガス排出量

(単位：t-CO₂)

年度 温室効果ガス の種類	令和元年度	令和2年度	前年度比
二酸化炭素(CO ₂)	28,546	27,888	2.3%削減
メタン(CH ₄)	372	384	3.2%増加
一酸化二窒素(N ₂ O)	1,181	1,199	1.5%増加
ハイドロフルオロカーボン類 (HFCs)	4	3	25.0%削減
パーフルオロカーボン(PFCs)	—	—	—
六ふっ化硫黄(SF ₆)	—	—	—
三ふっ化窒素(NF ₃)	—	—	—
合計	30,103	29,475	2.1%削減

※小数点以下を端数処理(四捨五入)しているため、合計と一致しない場合があります。

(2) 温室効果ガス排出量とその推移

(単位：t-CO₂)

排出起源		年度	平成25年度 (基準年度)	令和2年度 (実績値)	基準年度比	令和12年度 (目標値)
電気の使用			16,445	13,872	-15.6%	13,900
燃料の使用	都市ガス		3,248	2,318	-28.6%	3,150
	LPガス					
	A重油					
	灯油					
	ガソリン・軽油 (公用車燃料除く)					
公用車燃料			426	335	-21.4%	360
プラスチックごみの燃焼			24,534	12,019	-51.0%	7,800
その他 ・自動車(エアコン) ・下水、し尿の処理			1,973	932	-52.8%	1,973
合計			46,626	29,475	-36.8%	27,183

※小数点以下を端数処理(四捨五入)しているため、合計と一致しない場合があります。

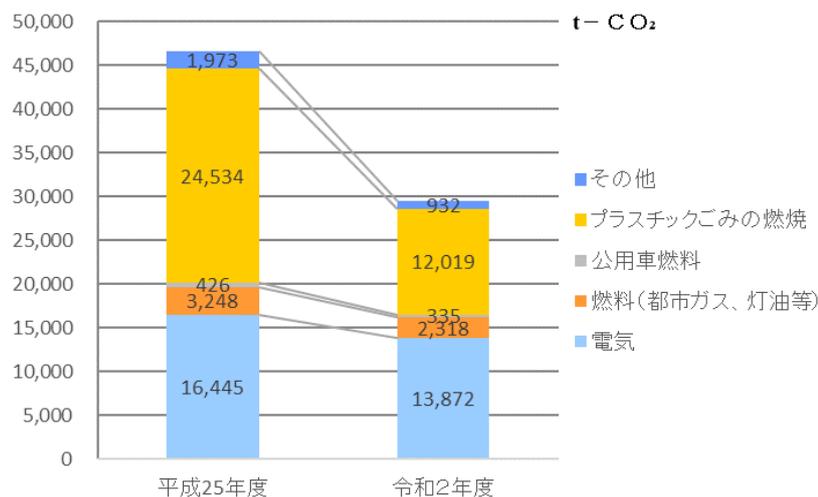
令和2年度の排出起源別温室効果ガス排出量は、電気の使用については、主に排出係数が下がった影響で減少しています。

燃料の使用については、小中学校などへのエアコンの設置により、灯油の使用量が減少したこと、公用車燃料は、新型コロナウイルス感染症の影響により、出張等が減少し、ガソリンの使用量が減少したことにより温室効果ガス排出量が減少しています。

また、上記に加え、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校の休校や施設の休館があったことが、電気及び燃料の使用が減少した要因の一つに挙げられます。

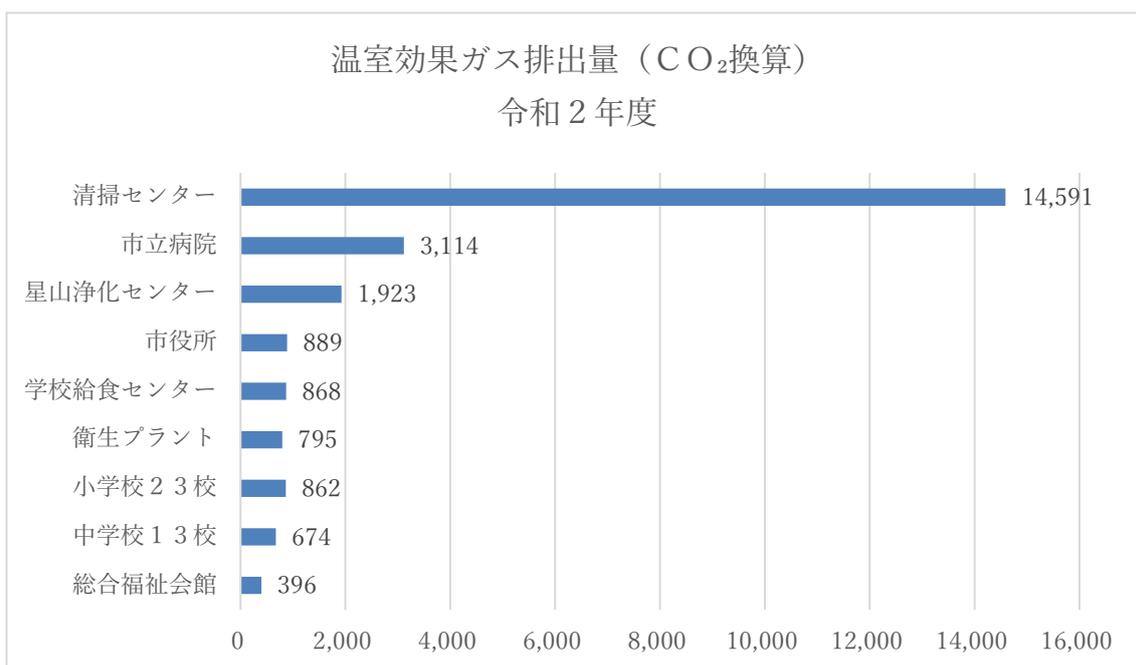
プラスチックごみの燃焼については、清掃センターで焼却するごみに占めるプラスチックの割合が減少したことにより、温室効果ガス排出量が減少しています。

その他については、排出係数の再設定等により温室効果ガス排出量が減少しています。



(3) 主要施設別の温室効果ガス排出量

(単位：t-CO₂)



(単位：t-CO₂)

施設名	二酸化炭素 (CO ₂)	メタン (CH ₄)	一酸化二窒素 (N ₂ O)	合計
清掃センター	13,937	1	653	14,591
市立病院	3,114	-	-	3,114
星山浄化センター	1,242	215	466	1,923
市役所	889	-	-	889
学校給食センター	868	-	-	868
衛生プラント	737	45	13	795
小学校23校	862	-	-	862
中学校13校	674	-	-	674
総合福祉会館	396	-	-	396
合計	22,719	261	1,132	24,112

※市の事務事業全体で排出された温室効果ガスは、国の法律に従い、CO₂の排出量に換算し、表記しています。

上図は施設別の温室効果ガスの排出量について、温室効果ガス別に示した図と表になります。

二酸化炭素については、プラスチックごみの燃焼からの排出量が多いことから、清掃センターが最も多く、次いで市立病院、星山浄化センターからの排出の順となっております。

メタンについては、星山浄化センターの下水処理からの排出が最も多く、次いで衛生プラントからの排出となっています。

一酸化二窒素については、清掃センターのプラスチックごみの燃焼からの排出が最も多く、次いで、星山浄化センターの下水処理からの排出の順となっています。

3 令和2年度取組結果

(1) 省エネ設備の導入

施設名称	導入設備
富士宮市役所	LED 照明(庁舎地下1階)
北山会館	LED 照明
上野会館	LED 照明
あすなろ園	空調設備の更新
保健センター	LED 照明(1階北側出入口階段、北側機能訓練室、2階エレベーター前廊下)
星山浄化センター	空調設備の更新
市立病院	LED 照明
西消防署	LED 照明
井之頭小学校	LED 照明(屋内運動場)
南部公民館	空調設備の更新(中会議室)
富士根北公民館	空調設備の更新(調理実習室)
市民文化会館	LED 照明(事務室・応接室)、空調設備の更新(展示室)
市民体育館	冷温水発生機、空調設備の更新

(2) 太陽光発電システムの導入

施設名称	設置容量	売電状況
市営万野住宅 C 棟	10.0kW	余剰売電
富丘交流センター	10.0kW	自家消費
白糸会館	5.5kW	自家消費

(3) 公用車の利用状況

車	台数
プラグインハイブリッド車(PHV)	2台
電気自動車(EV)	2台